

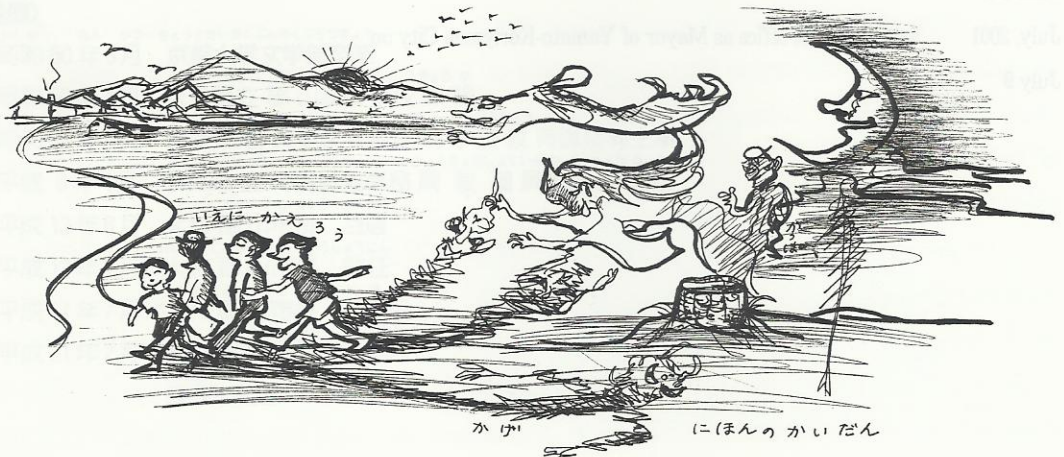
# 『日本の怪談』

タレント・工業デザイナー・怪談家  
稲川 淳二



日本人なら、誰でも、一つぐらゐは怪談噺を知っている。子供の頃、お爺さんやお婆さんから聞かされた、昔ばなしもあれば、「四谷怪談」のように有名な怪談もあって、日本の夏には欠かせない風物詩の一つとなっていて、日々の生活の中で、ごく自然に身の回りにある、日本の文化なんです。それは、怖い話でありながら、そんな事をしたら、必ず祟られて、恐ろしい仕返しを受けるぞ、という。人として、やってはいけない事への、警告であったり、「いいね。これは絶対に守るんだよ」という決りがあって、「もし、破ると、大変な事になるからね」といったような教えもあるんですが、裏を返せば、人間社会での守るべきルールとか、弱者への思い遣りとか、人間の尊厳といったもの、悲しみや怒りが其と無く隠されているんです。

怪談は、ただ怖いだけじゃない。だから昔から、子供達に怪談噺を聞かせては、人としての教育もしていたわけなんです。ただの娯楽というだけではないんです。例えば、日本には古くから各地に、河童伝説があるんですが、そんな中に、誰でも知っている、「烏が鳴くからかーえろ」という昔から子供達に歌われてきた、童歌があって、「からす烏たち達が「カアカア」とな鳴いて、やま山にかえ帰ったら、あそ遊びをやめてかえ帰るんですよ。烏が鳴いても帰るのを忘れて遊んでいると、河童の子供に、足を引っ張られて、水の中に引き摺りこまれるからね」という話が、言い伝えられていて、夕焼け空、烏が鳴きながら飛んでゆくと、子供達は、ごく自然に遊びをやめて、くちくち「からす 鳴くからかーえろ」と歌いながら、家路につくんですが、これには訳があるんです。昔の絵に、人の子供達が昼間遊んでいるのを、よしずの影から河童の子供がそっと覗いている



え つぎ ゆう や した ひと こども あと かっぱ こども あそ  
絵があって、その次に、夕焼けの下で、人の子供がいなくなつた跡で、河童の子供が、遊んでい  
る絵があるんです。

また、夕陽が大分傾いていて、小さな影絵のような子供達が4人、横に並んで手を繋いでいて、  
その影が地面に大きく長く伸びて、映っているんですが、その中の一つが河童の形をしているん  
ですね。でもそれは、河童の子供じゃないんです。この河童の子供というのは、実は体に障害の  
ある子供達や、知恵の遅れた子供たちなんですね。烏が鳴いて山に帰っても、まだ夕陽が残っ  
ていて、遊べるんです。この時間を、障害のある子供達に使わせてやろうという、思い遣りなん  
ですね。

また、日本の怪談には、欠せない気配。目には見えない風の冷たさや、幽かな匂に、季節の気  
配を感じたり、部屋で病人が眠っていれば、部屋を覗かずにそっと襖に耳を寄せて、寝息が聞え  
たら、“眠ってるようだから、後にしようか”とか、お客が来ていて、旦那さんと何やら込み入  
った話をしているようなんで、お茶を持って来た奥さんが、障子の外で、どうしたものかと立っ  
ていると、障子に映った影を見て、旦那さんが、“お入り”と声を掛けるといった、日常生活の中で、  
昔からごく自然につちかわれてきたものなんですね。この辺が、日本の怪談と、アメリカのホラー  
の大きな違いなんでしょうね。

目に見えて襲い掛かってくるものの恐怖と、気配の恐怖。恐怖の質が違うんですね。  
小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）は、怪談を、あなたがた方が持っていない日本人の「感性」  
だとヨーロッパに紹介しているんです。

## 【プロフィール】

いながわじゅんじ  
稲川淳二

1947年8月東京生まれ。タレント・工業デザイナー・怪談家。

くわさわ けんきゅうしょ へ こうぎょう ふた かお かつどう  
桑沢デザイン研究所を経て工業デザイナー・タレントとして二つの顔で活動。

にほん たいが ほか あお ばんぐみ しゅつえん  
日本テレビ「ルックルック」・NHK大河ドラマ他、多くの番組に出演。

へいせい ねん つうしょうさんぎょうしょうせんでい しょう くるま じゅうしゅう  
平成8年、通商産業省選定グッドデザイン賞「車どめ」を受賞。

かいだん かくち かた かた べ にんき たか はじ  
『怪談』を各地で語る語り部としても人気が高い。1992年から始まった『ミステリーナイトツアー』とい  
う怪談によるライブは毎年夏から年末にかけて全国を巡り、今年18年目を迎える。

オフィシャルHP：<http://www.j-inagawa.com/>